

新湯の噴気孔

噴気孔と呼ばれる地面の開口部は、地球の深部からの過熱水が水蒸気や蒸気として地表に現れるときに形成される。新湯の丘の中腹に点在する噴気孔から上昇する硫黄混じりの蒸気は、塩原の地形と温泉を形成した火山活動の最後の痕跡である。ここでは、蒸気に含まれる硫黄によって特有の刺激臭が発生し、周りの岩は風化した白亜質の外観を呈している。新湯温泉のほとんどの温泉はここを源泉とし、それらの温泉の特徴である乳白色は、硫黄ガスが温泉水に自然に注入されたことによるものである。